

獨協大学国際教養学部言語文化学科所属 専任教員2021年度研究業績一覧

(2021年4月～2022年3月までに一般に公開された各専任教員の研究業績の一覧)

明田川聡士

著書 (単著)

- ・『戦後台湾の文学と歴史・社会：客家人作家・李喬の挑戦と二十一世紀台湾文学』(関西学院大学出版会、2022年1月)

著書 (翻訳・単訳)

- ・黄崇凱『冥王星より遠いところ』(書肆侃侃房、2021年9月)

論文 (単著)

- ・「台湾文学と台湾ニューシネマ」(『ユリイカ』第53巻第9号、青土社、2021年8月、121～130頁)
- ・「臺灣文學、紀錄與影像中的少年工意象初探 (摘要)」(『第五屆竹塹學國際學術研討會：新竹在地文化與跨域流轉會議手冊』、國立清華大學、2021年11月、27頁。論文自体はフルペーパー、掲載は要旨のみ)

解説 (単著)

- ・「二十一世紀中国語圏文学の一角：楊富閔」(『マテシス・ユニウェルサリス』第23巻第2号、獨協大学国際教養学部、2022年3月、89～91頁)

書評 (単著)

- ・「林初梅、黄英哲編『民主化に挑んだ台湾：台湾性・日本性・中国性の競合と共生』」(『植民地文化研究』第20号、植民地文化学会、2021年7月、102～104頁)
- ・「呉明益『雨の島』：台湾ネイチャーライティングの新しさ」(『図書新聞』第3531号、武久出版、2022年2月、6頁)

翻訳 (単訳)

- ・楊富閔「長い夜」(『マテシス・ユニウェルサリス』第23巻第2号、獨協大学国際教養学部、2022年3月、67～88頁)

口頭発表

- ・「臺灣文學、記録與影像中的少年工意象初探」(第五屆竹塹學國際學術研討會、2021年11月)
- ・「戦後台湾人の文芸創作における「台湾少年工」表象をめぐる一考察」(東京

台湾文学研究会、2021年12月)

学術大会コメント

- ・「伊蒙楽「汪精衛政権を経験した台湾人の回顧録に関する考察：呉濁流、鍾壬壽を中心に」に対するコメント」(日本台湾学会第19回関西西部会研究大会、2021年12月)

オンライン書評インタビュー

- ・「松崎寛子著『鄭清文とその時代：郷土を愛したある台湾作家の生涯と台湾アイデンティティの変容』」(ブック・ラウンジ・アカデミア、2021年9月)

トークイベント

- ・「虚／実：侯孝賢作品と台湾社会の変化」(映画『HHH：侯孝賢』公開記念、2021年10月)
- ・「遠いところ、大切な時間」(黄崇凱『冥王星より遠いところ』出版記念、2021年12月)

浅山 佳郎

論文(共著)

- ・「物語モードの時制解釈の日英中対照研究：談話表示理論の視点から(『主節構造と意味解釈のインターフェイス 生物言語学的アプローチ』、研究代表者安井美代子、2018年度～2021年度科学研究費助成事業(基盤研究(C))研究成果報告書、安井美代子と共著、2022年2月、103～127頁)

論文(単著)

- ・「慣用的VPの構造について」(『獨協大学外国語教育研究所紀要』2021年第10号、獨協大学外国語教育研究所、2022年3月、25～44頁)

口頭発表

- ・「日本語の時制解釈と現在時制形態素の有無について」(安井美代子と共同発表、日本語文法学会第22回大会、2021年12月11日)
- ・「文法と日本語教育」(獨協大学外国語教育研究所2021年度第2回(通算第30回)研究例会、2022年1月26日)

安間 一雄

論文(単著)

- ・“Distribution of repeated appearance of grammar items in junior high school textbooks through nonlinear regression”[非線形回帰による中学校

英語教科書文法項目の再出現分布]『英語コーパス学会大会予稿集』(2021年10月) Proceedings of the JAECS Conference 2021, pp.91-96. https://jaecs.com/conf/proceedings47_2021.pdf

口頭発表／講演

- ・「Excel による並べ替え問題部分採点法: その後の展望」[Partial scoring of reordering tasks: explorations beyond] 情報学研究所研究報告会(獨協大学)(2021年6月)
- ・“Distribution of repeated appearance of grammar items in junior high school textbooks through nonlinear regression.” [中学校英語教科書文法事項再出現頻度の分布] 英語コーパス学会第47回大会 (2021年10月)
- ・“Willingness to participate — and how to overcome the difficulties.” British Council New Directions East Asia 2021 (2021年12月)
- ・「色次元の効用」 情報学研究所研究報告会 (獨協大学) (2022年2月)

臼井 芳子

口頭発表

Co-creation of a Community of Practice in an EFL Classroom in Japan: Classroom Interaction Strategies and Translanguaging (AILA Panel (S48) – Foreign Language Classroom Interaction from a Micro-Analytical Perspective)

於: AILA World Congress 2021 (Online/ 2021年8月17日 単独)

浦部 浩之

著書 (分担執筆)

- ・『よくわかる国際政治』 広瀬佳一・小笠原高雪・小尾美千代編 (「XI-14: ラテンアメリカ噴出する社会の矛盾と政治の混迷」182～183頁を分担執筆、ミネルヴァ書房、2021年11月)

論文 (単著)

- ・「2019年ウクライナ大統領選挙と選挙監視活動をめぐる論点—OSCE選挙監視団への参加もふまえて—」(『マテシス・ユニウエルサリス』第23巻第1号、獨協大学国際教養学部、2021年10月、1～31頁)
- ・「岐路に立つ中南米の民主主義—弱体化する民主主義擁護の地域メカニズム」(『外交』71号、外務省、2022年1月、82～85頁)

- ・「ラテンアメリカにおけるポストネオリベリズム期の地域統合—その歴史的文脈と新たな統合の試み—」（『国際政治』207号、日本国際政治学会、2022年3月、65～80頁）

口頭発表

- ・「米州協調の分岐点となった2009年ホンジュラス政変」（ラテン・アメリカ政経学会 第58回研究大会、オンライン開催、2021年11月）

岡村 圭子

講演

- ・埼玉県社会福祉協議会主催、地域社会福祉推進プラットフォーム「コロナ禍で見えた多文化共生」講師（2022年2月18日）

調査活動

- ・「外国語を母語とする児童への支援のネットワーク形成について」聞き取り調査（科研費）
- ・「ドイツにおける移民の子どもたちの教育・進学・就職について：現状と課題」（Prof. Dr. M. Eswein氏による講演会主催（獨協大学））

社会的活動

- ・社会福祉法人福祉楽団主催、草加市後援「重層的支援体制の構築に向けた勉強会」（全3回）開催協力
- ・公益財団法人草加市文化会館・理事
- ・草加市ふるさと応援基金運営委員会・会長
- ・草加市都市計画事業新田駅西口土地区画整審議委員
- ・草加八潮消防組合消防審議会・会長（2021年12月まで）

川村 肇

論文（単著）

- 「제2차 세계대전 후 일본 교육 개혁의 내용과 그 후의 변천」（『교육비평』47호, 서울, 2021年6月, 84～98頁）
- 「민주주의와 전쟁 후 교육을 생각한다」（『교육비평』48호, 서울, 2021年12月, 136～164頁）

翻訳（単著）

- 「ソウル「革新教育政策 1.0」の展開と課題 —システム論的分析を中心に」（韓国教員大学・金龍教授執筆）（『マテシス・ウニウエルサリス』第23巻第2号、

獨協大学国際教養学部、2022年3月、335～361頁)

書評 (単著)

「鈴木淳世著『近世豪商・豪農の〈家〉経営と書物受容—北奥地域の事例研究』」(『歴史学研究』第1010号、2021年5月、70～73頁)

高 恩淑

著書 (共著)

高恩淑 (2021)「第4章：文法 (4.1.3, 4.1.4, 4.2.1, 4.2.2, 4.2.4)」石黒圭 (編)
『日本語文章チェック事典』東京堂出版

小島 優生

論文 (単著)

- ・「韓国における教育と企業—教育寄付事業を中心として—」東京学芸大学 次世代教育研究センター『学校と外部機関の連携と教育の公共性に関する研究プロジェクト報告書』、2022年3月、23～28頁
- ・「韓国における学校暴力判例の争点：学校暴力予防法制定後の変化を中心に」『獨協法学』114号、2021年4月、75～103頁
- ・「スクールコンプライアンスの今 (第4回・最終回) 学校・保護者の責任分有レジームの中での「スクール・コンプライアンス」とは：いじめ防止対策推進法を例に」エイデル研究所『季刊教育法』215号 2021年9月、104～107頁

小宮 秀陵

著書 (共著)

- ・『한국고대사를 바라보는 다양한 시선 -송기호 교수 정년기념논총-』 송기호 교수 정년기념논총 간행위원회 (역음) (『동아시아 속 발해와 신라의 쟁쟁사건』, 진인진, 2021년 5월, 299～310頁)

口頭発表

- ・「9세기 新羅·渤海의 對唐外交와 文物交流의 變化」(제4회 국외명사초청 특강, 동국대학교 문화학술원 HK+사업단, ZOOM, 2021년 7월 28일)
- ・「신라 하대 대당관계의 변용과 동아시아 국제분쟁」(제64회 전국역사학대회: 역사 속의 위기와 대응, 자유패널, 신라사학회 <신라 대외관계의 위기와 대응>, 온라인 화상회의 (ZOOM), 2021년 10월 30일)
- ・「한국사와 한국학의 사이 - 일본에서의 한국고대사 연구 방향성 탐색」(제

68회 서울대 국사학과-BK21 한국학 컬로퀴엄 [제5회 BK21 국제 한국학 컬로퀴엄], 온라인 줌회의, 2021年12月10日)

佐藤 勘治

論文 (単著)

- ・「1911年中国人移民虐殺事件の諸相：メキシコ新興都市トレオンと中国人移民」(『マテシス・ユニヴェルサリス』第23巻第2号、獨協大学国際教養学部、2022年3月、1～34頁)

田口 雅徳

論文 (共著)

- ・「学生相談機関に対する本学学生の援助要請意図に関する学年比較」(『カウンセリング・センター年報』第41号、獨協大学カウンセリング・センター、2021年6月、17～25頁)
- ・「児童の人物画にみられる学校適応指標の検討：小学5・6年生の人物画を対象とした分析」(『カウンセリング・センター年報』第41号、獨協大学カウンセリング・センター、2021年6月、26～38頁)

論文 (単著)

- ・「ベトナム人日本語学習者にみられる図形の一筆描き動作の特徴：ドイツ人日本語学習者および日本人学生との比較による予備的検討」(『獨協大学外国語教育研究所紀要』第10号、獨協大学外国語教育研究所、2022年3月、123～132頁)
- ・「大学生の学習への取り組み方に対するBig Five性格特性の影響」(『マテシス・ユニヴェルサリス』第23巻第2号、獨協大学国際教養学部、2022年3月、35～44頁)

二宮 哲

論文

- ・「[Contable / no contable] y [contar / no contar] —形態的数と語用論的態度—」(『スペイン語学研究』36、東京スペイン語学研究会、2021年11月、41～63頁)

発表

- ・「固有名詞的 *Los domingos Superman está en casa*」(東京スペイン語学研究会、2021年12月18日)

野澤 聡

著書（共著）

- ・『よくわかる現代科学技術史・STS』塚原東吾ほか編著（1.13節「科学技術庁と科学技術基本法」を分担執筆）

口頭発表

- ・「A Comment on Niccolò Guicciardini, “Recent trends in Newtonian research: a historian of mathematics’s viewpoint”」（日本科学史学会第68回年会、オンライン開催、2021年5月（主催者からの依頼でコメンテーターとして登壇））
- ・シンポジウム「「新たなニュートン像」を越えて：数学、音楽、光学そしてニュートン主義における試み」（日本科学史学会第68回年会、オンライン開催、2021年5月（主催者からの依頼でコメンテーターとして登壇））
- ・「市民科学／オープンサイエンスについて：三澤勝衛たちの活動を意義付ける枠組みを求めて」（天文文化研究会、オンライン開催、2021年6月）
- ・「ジェントルマンサイエンスについて：諏訪天文同好会の再評価に向けて」（天文文化研究会、オンライン開催、2021年7月23日）
- ・「科学史を振り返る：三澤勝衛たちの活動を意義付ける枠組みを求めて」（天文文化研究会、オンライン開催、2021年8月20日）
- ・「シチズンサイエンスの歴史的再考」（天文文化研究会、オンライン開催、2021年10月29日）
- ・「長野県諏訪清陵高等学校天文気象部での太陽黒点観測の歴史」（2021年度科学技術社会論学会年次研究大会、オーガナイズドセッション：天文学史に関する記録の保存・評価・活用の試み、オンライン開催、2021年12月5日）

朴 鍾厚

翻訳書（単著）

- ・『언어를 둘러싼 문제들－언어학·일본어론으로의 초대（ことばをめぐる諸問題－言語学・日本語論への招待）』（서울: 박영사 [ソウル: 博英社]、2022年2月）[松本克己著『ことばをめぐる諸問題－言語学・日本語論への招待』（三省堂）の韓国語訳]

監訳

- ・『ヘイトをとめるレッスン』ホンソンス著、たなともこ・相 沙希子訳（ころから、2021年5月）

堀川 宏

論文（単著）

- ・「『アルゴナウティカ』における語り手とムーサ — 第1歌22行 Μοῦσαι δ' ὑποφήτορες εἶεν ἀοιδῆς」（『西洋古典論集』第26号：高橋宏幸教授退職記念号、京都大学西洋古典研究会、2022年2月、69～89頁）

口頭発表

- ・「アポロニオス『アルゴナウティカ』の語り手とムーサ」（京都大学西洋古典研究会、2021年12月19日）

松岡 格

論文（単著）

- ・「植民地統治下台湾における原住民の身分登録」（『マテシス・ウニウェルサリス』第23巻第1号、獨協大学国際教養学部、2021年10月、49～82頁）
- ・「安全と民主の相剋：戦後台湾における可視化と戸籍行政をめぐる争奪戦」（『マテシス・ウニウェルサリス』第23巻第2号、獨協大学国際教養学部、2022年3月、45～84頁）

安井 一郎

著書（共著・分担）

- ・『特別活動』上岡学編著（「学校における部活動の考え方」ミネルヴァ書房、2021年5月、142～157頁）
- ・『特別活動・生徒指導・キャリア教育』藤田晃之・森田愛子編著（「新学習指導要領における特別活動の改訂のポイントを述べなさい」、「特別活動における『自治的活動』の意味を説明しなさい」協同出版、2021年11月、16～19頁、50～51頁）

著書（編集・解題）

- ・『戦後初期コア・カリキュラム研究資料集 中学校編・附属校編』全4巻、金馬国晴・安井一郎・溝邊和成、クロスカルチャー出版、2021年9月

論文（共著・分担）

- ・「特別活動でThe OECD Learning Compass 2030のAgencyとコンピテンシーの発揮を図るための指導方法：小学校学級活動（1）を事例として」安井一郎・林尚示・鈴木樹・眞壁玲子・元笑予・下島泰子（『マテシス・ウニウェルサリス』第23巻第1号、獨協大学国際教養学部、2021年10月、83～95頁）

- ・「新型コロナウイルス感染症影響下における小学校の特別活動のカリキュラムの変容：東京都千代田区のエデュケーション課程局、学校だより、教師インタビュー調査を用いた事例研究」林尚示・安井一郎・鈴木樹・眞壁玲子・元笑予・下島泰子（『東京学芸大学紀要 総合教育科学系』73巻、2022年2月、31～38頁）

口頭発表（個人研究発表）

- ・「戦後コア・カリキュラム運動と特別活動」（令和3年度日本特別活動学会第1回研究会、創価大学：WEB開催）、6月19日
- ・「自治的活動を柱とする特別活動－戦後のコア・カリキュラム、日常生活課程の実践と研究から学ぶこと－」（日本特別活動学会創立30周年記念第30回東京大会公開シンポジウム提案、東京女子体育大学：Web開催）、8月21日

口頭発表（共同研究発表）

- ・「新型コロナウイルス感染症影響下における小学校の特別活動のカリキュラムの変容－東京都千代田区のエデュケーション課程局、学校だより、教師インタビュー調査を用いた事例研究－」林尚示・安井一郎・鈴木樹・眞壁玲子・元笑予・下島泰子（日本特別活動学会創立30周年記念第30回東京大会自由研究発表、東京女子体育大学：Web開催）、8月22日

山本 英政

エッセイ（単著）

- ・「なぜ、ハワイ」、『思想の科学研究会年報、第3号－Ars Longa Vita Brevis－』、思想の科学研究会、2021年12月、72～85頁
- ・ハオレガールズ
- ・ペントハウス in ワイキキ
- ・ピジンイングリッシュ

依田 珠江

口頭発表

- ・「身体運動と体温制御機構」日本繊維製品消費科学会 第41回消費科学講座 基調講演 2021年5月20日

解説

- ・「（第41回消費科学講座講演より）身体運動と体温制御機構」（依田珠江、『繊維製品消費科学』62巻・10号、日本繊維製品消費科学会、2021年10月、647～651頁）

林 永強

論文

- ・「新儒家としての西田幾多郎：人格実現説をめぐって」廖欽彬、伊東貴之、河合一樹、山村獎編著『東アジア哲学の生成と展開―間文化の視点から』法政大学出版局、2022年、523～543頁。
- ・“Bodily Pathos and Virtue Ethics: On Miki Kiyoshi’s Philosophy of Imagination”. *The Journal of East Asian Philosophy*. Vol. 1, Issue 1-2, 2021, pp. 31-42.

口頭発表

- ・“Feeling of Happiness and Moral Sentimentalism: On Nishida Kitarō’s Energertism”. International Conference on Emotion and Feeling in Japanese Philosophy. Department of Philosophy, Tohoku University, 24-25 April 2021. (Webinar)
- ・“Nishida Kitarō and Shaftesbury: An Encounter of Moral Sentimentalism”. The 6th Conference of European Network of Japanese Philosophy. Faculty of Humanities, Eötvös Loránd University (ELTE), Hungary, 1-4 February 2022. (Webinar)